

# 戦禍に負けない 祈りの心

まつのおさん

## 松尾山の 「お薬師さま」

上毛町

コロナ禍がようやく落ち着き始めた3度目の春、ウクライナではロシアの侵攻が始まりました。住み慣れた街、楽しい公園、祈りの場が次々と破壊され、多くの尊い命が失われる報道を目の当たりにしながら、ウクライナの人々が一日も早く平和な日常を取り戻すことができるよう願わずには居れません。

そこで、今回は時代の変遷の中で、祈りの心によって守られてきた上毛町寛円寺の小さな御堂に鎮座する薬師如来坐像(県指定有形民俗文化財)についてご紹介しましょう。



## 修験の山 松尾山と 薬師如来坐像

標高四七一メートル、低山ハイイクが楽しめる松尾山は、かつて修験道の霊山でした。奈良時代の七二八年には能行のりやうという僧が薬の力と仏の教えで村人を救い、薬師如来を本尊とする松尾山医王寺を建立し修験道の山として隆盛を極めますが、その後、幾度となく兵火を受け、一五八八年には本堂や本尊は消失してしまいます。

しかし、黒田氏が豊前中津に入国すると、



松尾山の本堂を再建。一六〇二年には本尊である「木造薬師如来坐像」を新たにづくり、開眼供養が行われます。  
 江戸時代になると、小笠原藩の手厚い保護を受け、松尾山は信仰の山として再び賑わいを取り戻しますが、明治政府が発令した「神仏判然令(神仏分離政策)」、「修験宗禁止令」により、松尾山医王寺は松尾山三社神社となり、「廃仏毀釈」運動のため「木造薬師如来坐像」は壊されそうになるのです。

松尾山の「お薬師様(木造薬師如来坐像)」はどんな時代を見てこられたのでしょうか。



むかし、むかし、能行ちいっお坊さんが松尾の山で修行をしておった時、「松の木の根元を掘ってみよ」ちいっお告げを聞き、松の木の根元に埋もれちよった薬壺を見つけたち。能行は病に苦しむ人たちに薬を施しながら仏の教えを広め、「お薬師様」を祀る「松尾山医王寺」を開いたち。それから長いこと松尾山は、修験の山として栄えちよった。ところが、戦国の世となると、松尾山の本堂や「お薬師様」も戦に巻き込まれ、焼けてしもつたち。

その頃、長い戦いの末に、ようやく中津に城を構えた黒田の殿様と家臣たちは、松尾山を哀れみ本堂を建て直し、新たに「お薬師様」もこしらえよつとしたち。中でも家老の栗山善助は熱心でのお、中津の城から筑前に国替えになつても「お薬

# 松尾山の「お薬師さま」

師様」が開眼する日にはやってきたほどじゃ。

やがて、山伏たちの祭礼「お田植祭」も盛んになると、「お薬師様」に病氣平癒を祈る村人たちも増えていったち。

ところが、明治の世になると「修験道はやめよ」「修験の山にある寺や仏像は壊せ」ちいっ、たまげた「おふれ」が出されての



お。松尾山の坊さんや山伏は追い出され、「お薬師様」はお堂に置き去りになつてもつたち。

「これはおおごことじゃ。松尾山のお薬師様を守らにゃ」「ち思つた横川の村人たち

は「お薬師様」を助け出そうと、夜中にこっそり登つていったち。すると、壊れかけたお堂の中で「お薬師様」は月光に照らされ、静かに微笑んじよつたち。「お薬師様、もう大丈夫じゃ」「村人たちは、蓮の台座から「お薬師様」を静かにおろすと、お薬師様の体と蓮の台座を、背中にしよつて、山を下り横川の小さなお堂に隠したそう。

しばらくして、誰もが「お薬師様」のことを忘れてしもつた頃、覚円寺の門徒じよつた村人たちは、「覚円寺の境内にお堂をたてて、お薬師様を守つてもらえんじよるか。」「ち住職にお願いして、覚円寺に運んだち。今でも、「松尾山のお薬師様」に救いを求める人たちが、覚円寺を訪れると、「お薬師様」は静かに微笑んで、励ましてくれるんじよつた。

現在、覚円寺に安置されている「薬師如来坐像」には、開眼供養、慶長七年十月十八日の日付と参列者の墨書銘が残されています。その中に、黒田家の筆頭家老栗山善助の名も記され、善助の「お薬師様」への思いを伺い知ることが出来ます。義に厚く黒田官兵衛の信頼を集めた善助。しかし、その子栗山大膳は黒田家を救うために「黒田騒動」を起こし流罪となります。昭和十一年（一九三〇）の日活映画「栗山大膳」では豊前市出身の大河内傳次郎が、義を貫く大膳を演じた記録が残っています。

黒田藩を追われた栗山家ですが、中津城下に残った子孫が営んでおられるのが、創業三百年の老舗「栗山堂」。白色と茶色の菊の花型の外郎饅頭は、ほんのり生姜味の上品な甘さで「お薬師様」を思わせる癒しの味わいです。また、北九州市の折尾には、遠賀堀川の開削に尽くした大膳の名が地名として今も残されています。

覚円寺のお堂には、松尾山から運ばれたという「輪蔵りんざう附護符等張紙りくごふりょうしやうりかみ」（真指定有形民俗文化財）も安置されています。高さ四メートルほどの八角形の回転式の輪蔵には、かつて経典がおさめられていたそうで、松尾山医王寺の修験道文化の一端を知ることが出来ます。戦の絶えなかつた戦国時代に開眼した「お薬師様」は、戦禍で傷ついた人たちに平和で穏やかな日々が訪れることを祈つて下さつてゐることでしょう。お薬師様に会いたくなつたら、覚円寺に「ご一報すまじ」とをお忘れなく。



●浄土真宗本願寺派 覚円寺  
福岡県築上郡上毛町尻高1209-3  
0969-72-2201

●参考文献

「上毛町松尾山修験道遺跡」上毛町教育委員会  
「新吉富村誌」  
「上毛風土記」009 栗山利安「上毛町広報」  
「日活」栗山大膳  
<https://www.nikkatsu.com/movie/13464.html>